

ます。

国内の旅行形態は、従来の職場や地域の人と出かける団体型から家族やグループで出かける個人型へシフトし、移動手段も自家用車やレンタカーが主流になりました。

平成19年12月に市がインターネットで首都圏などを中心に調査した「十和田湖周辺の地域活性化に向けたニーズ調査報告書」では、十和田湖・奥入瀬溪流の旅行経験者は個人旅行が約6割を占め、団体旅行は3割以下という状況です。

遊覧船事業者の声



十和田湖遊覧船運航事務所
所長 中村 昭夫さん

年々乗船利用者が減る中で、今年は昨年に比べさらに3割ほど落ち込んでいます。

これまでの十和田湖観光は、団体旅行客を中心としており、個人客への新たな対応が必要となります。

観光客が十和田湖観光に何を求めているのかを知ることは重要なことです。観光客へのインタビューでは、十和田湖畔で過ごすための新たな体験型メニューなどを求める動向を示しています。

わたしたちもは、これまで新たな運航コースの設定や、団体客への貸し切り運航、県内の観光施設とタイアップして乗船料を割引するなどいろいろな努力をしていますが、燃料の価格高騰も響いており苦しい状況が続いています。

そのため、これまで以上に首都圏での宣伝に力を入れています。また、今年7月には、大手旅行会社の社員で添乗員を目指すかたや窓口業務に携わるかた約70人が研修で訪れました。遊覧船で湖畔を案内し、湖上遊覧の素晴らしさを実感していただくことで、誘客、販売力につなげていきたいと思っています。

観光客への

突撃インタビュー

十和田湖畔を観光していて感じたことをお聞きしました。



● 十和田湖、奥入瀬溪流の景観はいつ来ても素晴らしいです。
(50代・県外)

● 自然の景観がよいので癒されます。
(20代・県内)

● インターネットや旅行雑誌によく紹介されているので、思い出づくりに来てみました。旅館の料理がよくて満足しています。
(10代・県外)

● 休屋地区では、日中時間をつぶさうと思っても十和田湖と乙女の像しかないの、子どもが飽きます。できれば、子どもに焦点を絞った催し物があればよいと思います。
(20代・県外)

● 十和田市街地から離れているため、レンタカーを利用しなければなりません。バスの運行本数が少ないので予定に入れにくいです。
(10代・県外)

● バスの運行本数や路線数が少ないので、休屋地区で一日をフルに観光に使えません。また、トイレなどの公共施設の表示が分かりにくいです。
(30代・外国人)

● 休屋地区には、十和田湖と乙女の像以外に観光スポットがないのがネック。他の地域のように、工芸品づくりなどの体験型メニューがあれば、今以上に観光客が来ると思います。
(40代・県外)

● 宿泊客や日帰り客の両方が楽しめるような体験型メニューの充実を図ってほしいです。
(20代・県外)

● 休屋地区へ来ても、半日もあればすべてを見終わってしまいます。十和田湖や乙女の像のほかに何か時間を費やすものがないと、観光客はすぐに奥入瀬溪流を見て、ほかの地域へ移動するのではないのでしょうか。
(30代・県外)

● 十和田湖観光の魅力は、自然景観のよさが挙げられています。しかし、バスの運行本数や路線数などの交通事情の問題や、十和田湖畔で過ごすための新たな体験型メニューが求められています。